

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	児童福祉課	主管課長名	稲葉 正典
1-1	施策名	子育て支援の充実と少子化対策の推進	関係課	健康推進課、こども園、学校教育課、国保年金課、農林課、生活環境課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民 子育てをする保護者	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,027	39,571	38,118	
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	38,422		
②中学生までの子ども(乳幼児・児童・生徒)を持つ世帯数				世帯	見込値	2,695	2,691	2,688	2,685	2,682	
					実績値	2,695	2,579	2,624	2,538	2,435	
						見込値					
						実績値					
成果指標設定の考え方		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
			①子育てがしやすいまちだと思ふ割合	%		目標値	48.0	49.0	49.0	50.0	51.0
安心して子どもを産み、子育てが できている。		②子育てが楽しいと感じる保護者の割合		%	目標値	90.0	90.5	90.0	90.5	91.0	
					実績値	88.1	84.3	83.8	89.6	92.1	
			③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合		%	目標値	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0
						実績値	63.7	65.0	64.1	66.5	67.8
					人	目標値	40	45	45	50	80
						実績値	0	22	0	0	6
				目標値							
				実績値							
	成果指標の把握方法と算定式等	成果指標設定の考え方	○安心して子供を産み子育てができるには、子育てがしやすいまちと思ふ割合が増加すると、子育てしやすい環境が整っていると考えられ出生率も上昇する。 ○子育て支援が充実することによって子育てが楽しいと考える保護者のわりあいが増加すると考えられる。 ○女性の就労人口が増えることにより仕事と子育ての両立が厳しいと思われ、子育て支援が必要と考えられる。 ○子育て支援としてお子さんを預かってほしい「お預かり会員」と預かってくださる「まかせて会員」のマッチングをすることで安心して子育てが行える。								
			成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①子育てがしやすいまちだと思ふ割合、③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合は、市民アンケートより求める。②子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、乳幼児健診時アンケートより求める。④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数は事業者からの利用実績報告数より求める。							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・出生率が年々減少している状況にある。 ・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、年々微増しており、昨年度とほぼ同数の数値で推移している。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合が年々増加傾向にあるため、多くの子を持つ親が順調に子育てできていると思われる。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合についても、年々微増傾向にある。核家族化が進む中で、共働きができることは、子どもを預かる援助が整っていると考えられる。 ・ファミリーサポート・センターは社会福祉協議会へ委託し業務を行っている。相談はあるものの、マッチングや利用に至らない場合が多い。徐々に利用希望者は増加しているが認知度もまだまだ低い状況。周知や事業見直しの検討が必要と思われる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、目標値とほぼ同数で目標値に達したと考えられる。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、高いと感じている。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合は目標値を0.8ポイント上回った。要因としては、希望する保育施設への入所により保護者が働ける状況ができたものと考えられる。 ・ファミリーサポート・センターの利用については、数件の相談があったが利用までは至らず目標値に達しなかった。制度導入後、8年間、利用者がほとんどない事業となっているため、問題の洗い出しを早急に行わなければならない。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
貢献度評価から見て、次の事業において一定の成果が出せたと考える。 ・保育所入退所事務、保育の必要性認定事務・・・希望する保育施設への入所により保護者が働ける状況ができた。 ・学童クラブ運営事業・・・桃山学園学童クラブの定員増の改正により、受け入れられる児童が増えた。谷貝学童クラブを谷貝分館から小学校の敷地内に移設し、市内全ての小学校内に学童クラブが設置できた。 ・地域子育て支援拠点事業・・・子育て親子の交流を通じ、子育ての不安感を緩和し、子育て支援に結びついている。 ・出産祝い金支給事業について・・・令和3年4月から、10万円に増額した。出産したものの全員が申請しており、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。 ・教育・保育施設利用者負担金軽減化事業・・・多子世帯の経済的負担の軽減につながり経済的支援ができています。	◎子育て支援として、過疎債を活用した事業を提案中 ・出産祝い金としての事業を拡充して実施予定。 ・ファミリーサポートセンター事業の見直し これまで社会福祉協議会へ業務委託を行ってきたが、8年間実績がほぼなかったことや、随意契約で契約してきたことについて見直しを行う。 ◎やまと認定こども園の長寿命化 ・やまと認定こども園の長寿命化計画として、学校の統合を見据えているところだが、駅北の開発地への新設なども視野に入れて計画を進めていく。